

これからの梨の栽培管理について（第5号）

令和6年6月19日
なのはな農業協同組合
富山県富山農林振興センター

1 梨の生育状況

6月11日（満開55日後）時点の「幸水」の果実肥大は、前年より大きく、平年並みです（無作為肥大調査結果：「幸水」果実横径 本年33.0mm、前年30.7mm、平年32.2mm）。

2 黒星病について

6月13日時点の「幸水」の発病果そう率は、前年に比べかなり少なく、平年に比べやや少ない状況です。また、その他品種も平年に比べ並み～少ない状況です（表1）。

しかし、一部園地では発病が多いこと、今後梅雨時期を迎えることなどから、引き続き発病部位の摘み取りや薬剤防除を徹底しましょう。

表1 年次別の黒星病発病果そう率（%）

令和6年調査日：6月13日、5月15日

品種	調査日	R6	R5	R4	R3	R2	R元	H30	H29	H28	平年
幸水	6/13	2.1	22.9	34.4	2.6	0.4	2.8	19.7	5.9	6.7	3.7
	5/15	2.7	34.8	19.1	2.4	0.3	0.8	7.4	3.1	5.9	3.3
豊水	6/13	1.1	17.3	24.4	1.6	1.1	4.6	19.2	14.6	8.4	6.1
	5/15	1.0	18.6	7.3	0.6	0.4	0.7	7.8	12.1	5.9	4.6
あきづき	6/13	0.0	11.7	5.0	1.2	0.0	0.0	7.0	3.0	2.0	0.8
	5/15	1.0	8.3	0.5	1.0	0.0	0.5	2.5	2.5	0.0	1.1
新高	6/13	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.7	4.0	0.1	1.6	0.5
	5/15	0.0	0.3	0.5	0.0	0.0	0.0	1.4	1.1	0.4	0.5

3 仕上げ摘果作業について

- 摘果作業が遅れている場合や着果量が多い場合は、表2を目安に早急に適正着果量へ制限し、果実肥大を促進してください。

※補正摘果基準表が必要な方は、資料をお渡ししますので梨会館にお越しください。

表2 仕上げ摘果時の着果量（目安）

品種名	1㎡当たりの着果量	側枝長当たり（100～120cm）	1樹当たりの着果量（3間植の場合）
幸水	10～11果	5～6個	290～320果／樹
豊水	11～12果	6～7個	320～350果／樹
あきづき	11～12果	6～7個	320～350果／樹
新高	9～10果	4～5個	260～290果／樹

4 コンフューザーNの追加設置について

ナシヒメシンクイやハマキムシ類は、梨の収穫期間中にも発生します。収穫期間中は農薬防除が困難なため、**収穫前までにコンフューザーNを必ず追加設置し、対策の強化を図ってください。**

	内容	注意事項
設置本数	50本／10a	①ほ場の外周は有効成分濃度が薄くなるため、多めに設置する。 ②傾斜地では斜面上側を多めに設置する。 ③周辺にウメやモモがある場合には、これらを含めて設置する。
設置時期	7月下旬 （「幸水」の収穫前までに）	
設置間隔	約4.5m間隔（1樹あたり1～2本程度）	

5 これからの防除について

【重要】

- 第15～17回目の防除は「幸水」の果実が黒星病に最も感染しやすい時期の防除となります。効果の高い防除を実践するため、散布間隔が10日以上空かないよう、また雨前散布に努めてください。
- OSSは、「低圧、低速、全列走行」を心がけましょう。
- 短果枝群や側枝の基部では、葉の繁茂に伴い薬剤到達性が低くなり、黒星病の感染を助長させる原因となります。摘果作業等と並行して新梢管理（芽かき、新梢の切除）を実施してください。

回数	散布月日	薬剤名と希釈倍数	散布量	主な対象病害虫	防除実施日 (自己記入)
13	6月24～26日	オキシラン水和剤 600倍 サムコルフロアブル10 5,000倍	300 ℓ	黒星病、輪紋病 シンクイムシ類、ハマキムシ類、ケムシ類	
14	6月29日 ～7月1日	ダニゲッターフロアブル 2,000倍	400 ℓ	ハダニ類、ニセナシ サビダニ	
		●殺ダニ剤の効果を十分発揮させるため、散布前には必ず草刈りを実施しましょう			
15	7月4～6日 (満開後78～80日)	ミギワ20フロアブル (治療剤) 2,000倍	300 ℓ	黒星病、輪紋病、 黒斑病、うどんこ病	
		ベルコートフロアブル 1,500倍			
16	7月13～15日 (満開後87～89日)	ストロビードライフロアブル (QoI剤) 3,000倍	300 ℓ	黒星病、輪紋病、 黒斑病、うどんこ病 シンクイムシ類、カメムシ類、ケムシ類、コナカイガラムシ類、アブラムシ類	
		オーソサイド水和剤80 1,000倍 アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍			
17	7月22～24日 (満開後96～98日)	オンリーワンフロアブル (DMI剤) 2,000倍	300 ℓ	黒星病、輪紋病、 うどんこ病	
		オーソサイド水和剤80 1,000倍			
	7月25～30日頃	コンフューザーN 50本/10a 必ず設置してください！		リンゴコカクモンハマキ、モモンクイガ、ナシヒメシンクイ	
18	7月31日 ～8月2日	オーソサイド水和剤80 (収穫72時間前まで) 1,000倍	300 ℓ	黒星病、輪紋病 シンクイムシ類、ハマキムシ類、カメムシ類	
		アグロスリン水和剤 2,000倍			

※18回目のオーソサイド水和剤80の使用時期は収穫3日(72時間)前までです。散布の際は、極早生品種の「香麗」や「なつしずく」などの収穫日に注意してください。

※黒星病の発生が多い園地では、14回目にユニックス顆粒水和剤47(2,000倍)を加用してください。

※カイガラムシ類の発生が多い園地では、16回目と17回目の間にトランスフォームフロアブル(2,000倍)を単剤で散布してください。ただし、葉害防止のため前後の散布日から3日以上間隔を空けてください。

※散布に当たっては、希釈倍数や対象病害虫など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。

※こまめに水分を補給するなど、熱中症に留意してください。

※周囲の農作物や住宅等への農薬の飛散に十分注意して散布してください。特に、通学路に面した園地では、登下校時の時間帯を考慮して散布してください。また、防除開始時間は、午前5時以降としてください。

カメムシ類の吸汁被害果が多い場合は、速やかに富山農林振興センター・濱谷(090-3762-5149)または各地区の防除担当者へご連絡ください。